

# 患者の皆様へ

2018年 2月 1日  
婦人科・周産期母性科

現在、婦人科・周産期母性科では、妊娠終了後に血流豊富な子宮超音波像を認めた症例、妊娠組織残存例に関する研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では2008年1月～2017年12月に初期・中期流産後、分娩後や胞状奇胎手術後の妊娠組織遺残例・血流豊富な子宮超音波像（子宮内に妊娠組織の遺残、胎盤ポリープおよび子宮内仮性動脈瘤など）を認め、当院で治療を受けられた患者さんの診療情報・病理組織標本などを利用して頂きます。診療情報・病理組織標本などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

## 1. 研究課題名

「流産・分娩・胞状奇胎後に血流豊富な子宮超音波像を認めた症例、妊娠組織残存例に対する診断・管理法の後方視的検討」

## 2. 研究の意義・目的

流産・分娩・胞状奇胎後の血流豊富な子宮内陰影を呈して当院で治療を受けられた患者さんの経過について、検証します。また病理組織標本を詳細に解析することで、疾患の原因の解明を目指します。

## 3. 研究の方法

2008年1月1日から2017年12月31日の間において、診療録に記載されている身長、体重、年齢、生年月、合併症、既往歴、現病歴、妊娠分娩歴、前治療、血圧・脈拍数、血液検査（血算・hCG（ヒト絨毛性ゴナドトロピン）値）、超音波検査などの画像所見、子宮内容除去術の手術記録、輸血、バルーン止血法の施行、動脈塞栓術施行の有無などを調べさせていただきます。また病理組織検体を再評価し、hCG・hPL（ヒト胎盤性ラクトゲン）、サイトケラチンなどの免疫染色を行います。

## 4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、匿名化して管理し外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院生殖医学教室の鍵のかかる引き出しに保

管します。

#### 5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をします。下記窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて揭示を行っています。

**研究実施機関** : 千葉大学医学部附属病院婦人科・周産期母性科  
**本件のお問合せ先** : 千葉大学大学院医学研究院生殖医学  
講師 碓井 宏和（うすい ひろかず）  
043（226）2121 内線5312（産婦人科医局）